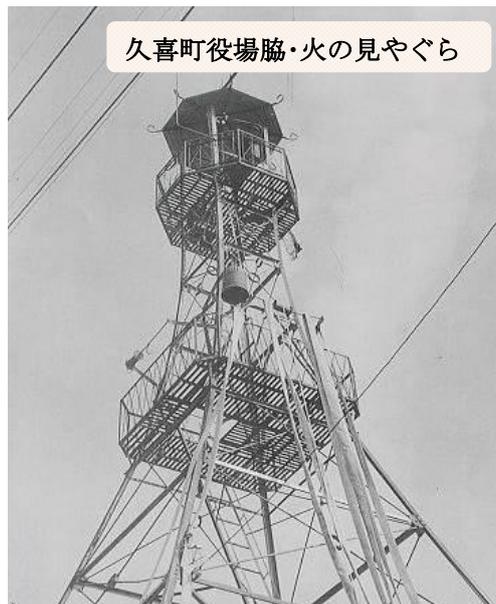
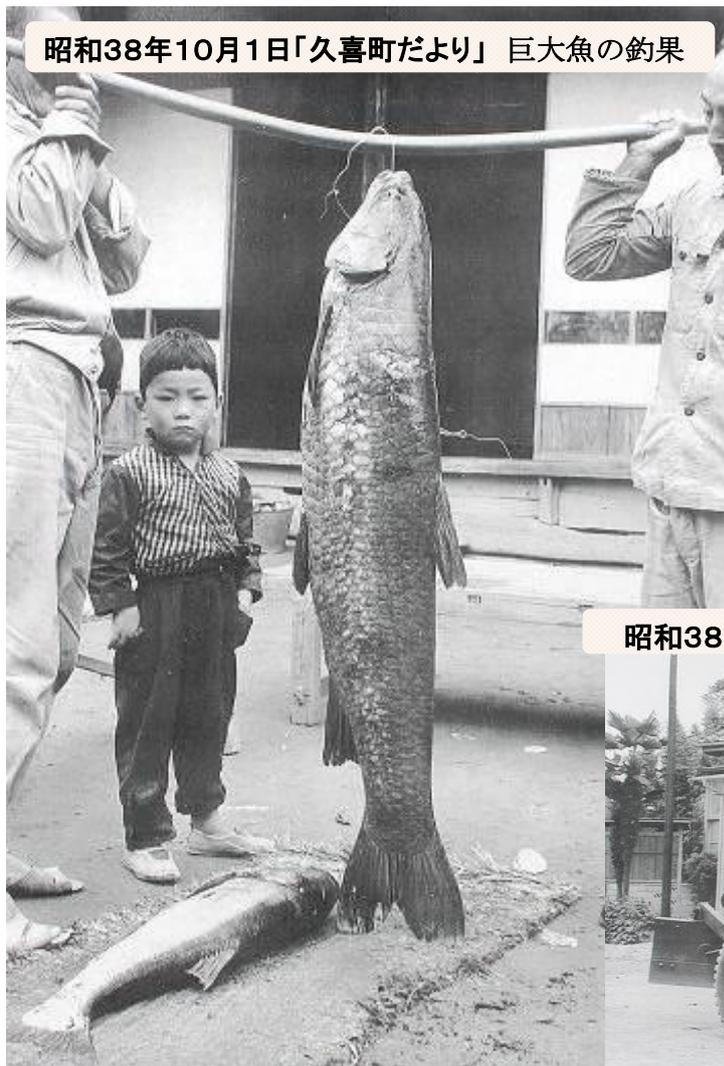


広報カメラが撮った久喜市の100枚



H26.8.19 (火) ~ H26.10.31 (金)

●開館時間:午前9時~午後5時 ●入館無料

●休館日:土曜日・祝日(日曜日は観覧できます)

■久喜市下早見85-1(市役所西側) TEL0480-23-5010

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/shisei/kobunsho/kobunsho/kobunsho.html>

■交通案内:JR宇都宮線・東武伊勢崎線 久喜駅西口下車徒歩17分

過去に学び未来を見つめる

久喜市公文書館

企画展「広報カメラが撮った久喜市の100枚」を開催するにあたって

「豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市」を将来像として掲げ、1市3町が合併して新・久喜市が誕生してから、早や5年目を迎えました。今回の企画展では、「広報カメラが撮った久喜市の100枚」と題して、主に昭和30～40年代に旧久喜町の職員が広報用に撮影した写真資料を紹介します。

この写真資料は、久喜市の公文書のライフサイクルに基づいて、昨年度行った評価選別作業の中で発見され、今年度から公文書館の歴史公文書になったばかりのものです。

公文書館職員が、毎年数多くの公文書を実見しながら、地道に評価選別を行ってきた成果の一つであるといってもよいでしょう。これらの写真資料をとおして、当時の風景や子どもたちの変わらない笑顔を懐かしむもよし、発展してきたまちの歴史に思いを寄せるもよし、まちの歴史研究に活用されるもよし、一人でも多くの皆さまがお互いに声をかけあい、この会場に足を運ばれ、いろいろなことを考えていただくきっかけになればと思います。

結びに、住みやすい街として、100年先まで発展していく街として、透明度No.1の街として未来に向かってまちづくりをすすめている本市にとって、公文書館が存在するということが、そしてこの公文書館が担っている役割というものは、決して軽くはありません。むしろ、今後保存資料が増えていくことによって、そして文化を愛する世の中が続く限り、ますます重要になっていくことでしょう。

この企画展を通して、一人でも多くの皆さまが公文書館の活動にさらなる理解を深めていただくとともに、公文書館を積極的に活用していただければ幸甚です。

平成26年8月

久喜市長 田中 暄 二

今回の企画展について

久喜市公文書館の主要な事業の一つに、「評価選別」があります。「評価選別」とは、保存年限を満了した公文書や、30年保存文書で25年を経たものの中から、当館の職員が議論をしながら、未来に残すべき重要な歴史資料となる市の公文書を、選び出すことです。

現在、当館では、ファイリングシステム(文書を整理し、仕事を効率化するためのシステム)を導入する前の、昭和58年度以前の公文書の「評価選別」を実施中です。今回、この昭和58年度以前の公文書の中から、旧久喜町時代の広報用に撮影した写真が、アルバムで11冊ほど出てきました。このアルバムの中の写真は、久喜の歩みを跡付ける貴重な資料です。当企画展では、懐かしい風景を写しているものや、興味深い内容のもの100枚を厳選し、9つのテーマに分けて紹介いたします。

No. 580100 巨大魚の釣果 【久喜の賑わい】(1)

昭和38年10月1日の「久喜町だより(第70号)」のトピックス欄に、『大魚生けどる』という、極めて興味深い記事が掲載されていますので、その全文を紹介します。

『久喜町と幸手町のさかいを流れる葛西用水で写真のような大きい魚がとれました。この魚は「草魚(そうぎょ)」といって昭和23年頃利根川に放したそうですが、生後6～7歳位で目方が25.5kg・全長1.3mという大物です。この魚を仕留めた人は、大字青毛のTさんで、去る9月18日午前5時頃、近所の人たち5～6人と一緒に葛西用水玉屋橋(たまやばし)の下でモリツキをしていたところ、突然大波をたてて、この怪物のような魚が飛び出し、逃げまわる大魚を追いかけて首すじを一突き、これを仕留めたものですが、余りに大きいのでビックリ、自宅からリヤカーを持ってきて家へ運び込むなど大騒ぎをしたそうです。』

記事の写真には、「怪物のような草魚」と説明されています。「草魚」とは、中国原産のコイ科の淡水魚です。名前のおり草食で、最大2mまで成長します。中国では蒸したり油で揚げたりして、食べられています。

No. 580096 中元売出し福引抽せん場【久喜の賑わい】(2)

昭和38年7月1日の「久喜町だより(第67号)」に、「★特賞は子供★大売り出し抽せん会」という記事が掲載されています。この記事によれば、「特賞扇風機が久喜新(くきしん)の子供さんに当る～約1万2千本の抽せん会は、いろいろの話題を残して閉会」とあります。

別の年に開催された福引の写真には、『特賞壺萬円』、『一等電気スタンド』という貼り紙が写っています。高度成長期という時代を感じさせる賞品の数々です。

No. 580096 七夕まつり【久喜の賑わい】(3)

昭和44年9月25日の「久喜町だより(第77号)」に、「ことしも盛大だった七夕まつり」という記事が掲載されています。この記事によれば、「(8月)6日は竹かざりコンクールの審査会・民謡会による民謡大会、7日には、チンドンヤ大会・東京の円谷プロダクションによる怪獣大行進・撮影会などが繰りひろげられました」とあります。有名な特撮番組に出てくる着ぐるみ姿が、興味深く面白い一枚です。

No. 580093 市内を練り歩くチンドン屋【久喜の賑わい】(4)

昭和40年9月5日の「久喜町だより(第44号)」に、「盛況だった七夕まつり」という記事が掲載されています。この記事によれば、『8月6・7・8日の3日間、七夕笹竹飾りのコンクールが開かれました～さいわいの好天気町外からの見物客も多く、夜遅くまでにぎわいました～駅前広場では、商工会主催の映画会、チンドンヤ大会、書道会などが盛大に～7日には久喜町写真組合によるモデル撮影が行われました』とあります。この写真は、その時の「チンドンヤ大会」の様子を写したものです。現在、チンドン屋スタイルの広告業は大変珍しくなりました。

No. 580097 埼玉国体清掃活動(駅前)【久喜の賑わい】(5)

昭和41年9月25日の「久喜町だより(第55号)」に、「成功させよう★埼玉国体」の記事があります。この記事によれば、「婦人会では支部ごとに毎月22日を清掃日として役員の皆さんが、広場、遊園地などの清掃を行っています～埼玉国体を成功させるため会場県としての意気を盛り上げる～」とあります。この写真は、この時の駅前清掃を写したのですが、駅前の様子や映画のポスターを讀んでみると、時代を感じさせられます。

No. 580096、580101 久喜町商店街【久喜の賑わい】(6)

昭和37年9月1日の「久喜町だより(第59号)」に、「ネオンアーチ完成」という記事が掲載されています。この記事によれば、「駅前通りにネオンアーチをつくりました～町からの補助金とスポンサーの出資によるもので工費30万円、これで駅前のとあわせて2基めです」とあります。このような、昭和30年代後半から40年代初頭にかけての商店街の写真は、現在では極めて貴重な歴史資料です。

No. 580093 久喜町内遠景【久喜の賑わい】(7)

昭和41年1月6日に撮影された、久喜町内の遠景写真です。現在と比べると、高い建物は、あまり多くありません。

No. 580097 本場「埼玉梨」大阪向出荷【久喜の賑わい】(8)

昭和37年10月1日の「久喜町だより(第60号)」に、『埼玉梨「長十郎」大阪へも大量出荷』という記事があります。京浜・湘南・大阪へ大量出荷していたとも書いてあります。この写真からは「江面梨出荷組合」の文字が読み取れます。久喜で梨栽培が盛んになったのは、「埼玉梨の元祖」と呼ばれる、久喜市菖蒲町台出身の五十嵐八五郎氏(いがらしはちごろう・1854年～1927年)が、明治17年頃に菖蒲町三箇地区や江面地区に、「長十郎」と呼ばれる品種の栽培を普及させたことによります。現在では、「長十郎」という品種は、作られなくなりましたが、現在でも梨栽培は盛んです。

No. 580097 歳末助け合い・餅つき【久喜の賑わい】(9)

昭和42年1月15日の「久喜町だより(第58号)」に、久喜町と社会福祉協議会が実施した「歳末たすけあい運動」について記事があり、『さる12月21日に行われた餅つきに、当時の町長と町議会議長が手伝った』という内容が書かれています。社会福祉協議会とは、地域福祉の推進を図るための団体です。一般的には「社協」と呼ばれています。

No. 580100 町章候補、No. 580103 幻の町章 【久喜の行政】(1)

昭和39年9月20日の「久喜町だより(第77号)」に、「町章きまる」という記事があります。113点の応募の中から久喜南中学校美術部がデザインしたものが、町章として選ばれました。この町章は今回の合併前の旧久喜市でも引き続き使用されました。「久」を2つ組み合わせ、中の白く空いた部分で「キ」と読ませる意匠(いしょう)です。この写真には、幻となった町章案も数多く写っています。入選しなかったものの中には、「キ」を9本円形に並べて「クキ」を表現したユニークなものもあります。また、当時の選定会議で使用した町章案の現物も残っています。

No.580101 新町10周年記念式典、No.580101 トラクター(新町施行10周年記念農業祭) 【久喜の行政】(2)

昭和39年12月25日の「久喜町だより(第78号)」は、「新町施行10周年記念特集号」でした。昭和29年7月に1町3村(久喜町・太田村・江面村・清久村)の合併の10周年を記念して、昭和39年11月29日に久喜中学校体育館で式典が行われました。同年12月1日には、農業祭も開催され、約400名の参加者が見守る中、トラクターの稼動が実演されました。

No. 580097 七つの祝 【久喜の行政】(3)

子どもの成長を祝うため、11月15日に行われる「七五三」のうち7歳の児童に対して、久喜町では「七つの祝」を実施していました。昭和42年度には、久喜町内で447人の児童が該当者として記録されています。会場別に久喜中で263人、太田小で90人、江面第一小で43人、江面第二小で19人、清久小で32人でした。

No. 580097 成人式 【久喜の行政】(4)

久喜市で現在も行われている成人式ですが、この写真には、昭和42年10月27日から6日間、埼玉県で開催された「第22回国民体育大会」の国体旗が飾られているのが確認できますので、昭和42年1月の成人式の写真と推測されます。

No. 580096 動く交通安全教室 【久喜の行政】(5)

日本国内において、交通事故で亡くなられたかたは、昭和45年にピークに達しました。日清戦争の戦没者を超えるペースで被害が発生していたため、昭和30年代から「交通戦争」という言葉が使われるようになりました。この写真のバスには、「動く交通安全教室」の標示が貼られています。各所をバスで移動しながら、交通安全の啓発に努めた事業と考えられます。

No. 580093、580094 全国水道週間・久喜町水道課 【久喜の行政】(6)

昭和39年5月1日の「久喜町だより(第75号)」に、「久喜町水道週間」の記事が掲載されています。水道週間とは、『健康な日常生活を営むうえに、重要な役割を果たす水道について、愛護感謝の思想を高揚して、水道普及の促進をはかるもの』と説明されています。記事には、水道設置促進のため、自動車パレードを実施したとあります。写真には、造花で飾られた、オート三輪車も写っています。

No. 580095 久喜町役場庁舎 【久喜の建築物】(1)

昭和49年10月の「広報くき・特集号」に、「新庁舎の早期建設を」という記事が特集されています。特集記事には、『市民サービスの総合窓口ともいべき市庁舎は老朽化し、更に狭さも手伝って、市民の方々にご不便をおかけしております～市庁舎はあちこちに分散～このような庁舎では、市民サービスの向上もなかなか思うにまかせず、なお一層のサービス向上を図る意味でも新庁舎の建設がぜひ必要』とあります。現在の市庁舎が完成後、旧庁舎は取り壊され、跡地には「中央公民館」が建てられました。

No. 580097 清久小学校役場訪問 【久喜の建築物】(2)

昭和41年4月25日の「久喜町だより(第51号)」に、「小学校の役場見学」という記事が掲載されています。この記事は、太田小学校3年生の児童が、昭和41年4月14日に役場見学をしたとありますが、同年11月16日にも、清久小学校の児童が役場見学をしています。この写真は、その時のものです。旧久喜町役場庁舎の外観を写した写真は、ある程度残っていますが、当時の庁舎内部の写真は極めて珍しいものです。

No. 580095 久喜町公会堂 【久喜の建築物】(3)

旧久喜町役場の、すぐ隣に「久喜町公会堂」がありました。この建物は、「久喜町中央公民館」としても使用されており、写真からは「久喜商工会」等の文字も読み取れます。また、建物に貼られているポスターには、「秋季囲碁大会」の文字が判読できます。久喜で執行される選挙の際には、第1投票所としても使用されました。久喜町中央公民館は、社会教育法施行5周年となる昭和29年に、優良公民館として表彰されています。

No.580102 久喜市庁舎竣工記念式典 【久喜の建築物】(4)

「広報くき・昭和55年12月号(No.180)」の表紙に、「11月14日に新庁舎竣工式」の記事が掲載されています。この記事には、「当日は、新庁舎建設に貢献した方々に感謝状の贈呈などが行われました」とあります。この式典に先立ち、昭和55年9月8日に新庁舎玄関前において、新庁舎開庁式(テープカット・記念植樹)が行われました。

No. 580092 大宮栗橋間道路建設促進期成同盟会総会 【久喜の建設】(1)

昭和35年6月10日の「久喜町だより(第33号)」に、「大宮栗橋道路建設・関係町村のうごき活発」という記事が掲載されています。この記事によれば、「5月13日、大宮市立大宮小学校において、東北本線沿線の7市町村の代表と、国や県の関係者約300名が集まり、大宮-栗橋間の道路建設促進大会が盛大に行われました」とあります。久喜でも町長・町会議員・農業委員等の代表20名が参加し、国や県に決議文を手渡しました。現在、さいたま栗橋線が久喜市を通り、当市の交通の利便性が高いのも、これら先人の努力の賜物です。

No. 580096 大宮栗橋線開通祝賀会 【久喜の建設】(2)

昭和42年11月15日の「久喜町だより(第63号)」に、「大宮・栗橋線開通」の記事があり、「主要地方道大宮栗橋線は、さる9月9日開通～当日は、午前10時より大宮市で式典が盛大に挙行～延長18.78kmにおよぶ道路をパレード～パレード隊一行は、終点栗橋から折返し、祝賀会々場の久喜南中学校に着き～大宮栗橋線開通を祝い祝賀パーティが開かれました」とあります。

No. 580098 大宮栗橋線(開通後) 【久喜の建設】(3)

昭和43年3月25日の「久喜町だより(第67号)」の表紙に、この歩道橋の写真が大きく掲載されています。記事には、「県道新大宮栗橋線に架設された完成間近の久喜町上早見歩道橋」と説明されています。現在、新規に歩道橋を架けることは、全国的に無くなりましたが、児童や生徒の交通事故を減らすという大きな役割がありました。開通した大宮栗橋線を走る「ボンネットトラック」も写っていますが、現在では、ほとんど見かけなくなりました。

No. 580096 東北高速道久喜試験盛土工事 【久喜の建設】(4)

東北道の橋脚を、安全に施工するために実施された、試験盛土(もりど)工事を写した珍しい写真です。盛土とは、低い地盤や斜面に土砂を盛り上げて高くし平坦な地表を作る工事です。昭和42年6月20日の「久喜町だより(第62号)」には、盛土工事の前に実施された、「東北自動車道路・路線測量すすむ」の記事があります。昭和47年11月、岩槻・宇都宮間が開通したことにより、道路交通の利便性が高まり、久喜市は更なる発展をしていくこととなります。

No. 580100 道路補修車 【久喜の建設】(5)

昭和38年9月1日の「久喜町だより(第69号)」に、「グレーダーはこれです」という記事が掲載されています。この記事によれば、「7月25日、道路なおしに使う小型グレーダーが入りました～価格は55万円で、1日に約250人分の仕事ができます～やがて私たちの町道もだんだんよくなってくでしょう」とあります。グレーダーとは、整地作業をするための建設機械です。3輪車のグレーダーには「久喜町役場土木課」と書かれているので、委託工事ではなく役場による直営工事が実施されていたことが解ります。

No.580097 六間道路舗装工事、No.580100 道路工事(駅前)、No.580103 道路工事(市内) 【久喜の建設】(6)

昭和41年12月15日の「久喜町だより(第57号)」に「六間(ろっけん)道路舗装工事すすむ」とあります。国庫補助事業として実施された舗装工事は、5か年計画でした。今回のアルバムの中には、昭和39年の駅前広場舗装工事ははじめとする工事写真も数多く含まれており、比較的残りやすい式典写真等よりも、ずっと残りにくい写真であるため、大変珍しい資料といえます。

No.580100 電柱建柱工事、No. 580097 電話線敷設工事 【久喜の建設】(7)

実際の広報には掲載されていない写真ですが、電柱を建てる工事や、久喜町内の電話線工事の様子が写っています。昭和40年代は、急速に電力需要が増し、また、電話が普及した時代でもあり、そのような時代を象徴する写真ともいえます。工事看板から、昭和42年2月15日から3月31日までの年度末に、工事があったことが判読できます。

No. 580096 「稲荷橋」渡り初め、竣工、改良前の木橋 【久喜の建設】(8)

昭和42年11月15日の「久喜町だより(第63号)」に、「稲荷橋完成」の記事があり、「重量車の運行などにより、木橋のため破損がひどかった町道4号線の青毛堀に架換工事中だった稲荷橋がこのほど完成」とあります。昭和42年10月6日、渡り初め式が執り行われました。永久橋の長寿を願う渡り初めは、3世代健在の夫婦が最初に橋を渡る慣習です。この写真は、渡り初めの様子と竣工した橋、改良前の木橋と木橋上部の様子です。

No. 580096 久喜本地内上水道配水タンク 【久喜の建設】(9)

昭和44年4月25日の「久喜町だより(第74号)」の表紙に、「配水塔が完成」とあります。「配水塔」とは、上水道における配水システム(様々な場所にある蛇口から、水を安全・確実に出させるシステム)を稼働させるために設けられた、十分な水圧を与えるための巨大なタンクのことを言います。この写真は、昭和42年11月に撮影された、久喜本(現在本町1丁目)地内の浄水場で工事中の「配水塔(高さ25m)」の様子です。当時、関東で2番目の大きさでした。

No. 580096 道合(どうあい)団地造成竣工記念式 【久喜の建設】(10)

昭和41年6月1日の「久喜町だより(第52号)」の表紙に、「道合団地竣工式行わる」とあります。この記事には「230区画の大宮・栗橋線にそった、道合団地がこのほど完成～5月14日竣工式が行なわれました」と記載されています。団地内の公園で執り行われた式典の様子が写されています。昭和40年代の久喜は、首都近郊の都市としての発展の中、都市基盤(団地、都市計画道路、公共下水道等)が着々と整備されていった時代です。

No. 580098、580095、580096 久喜駅(カラー写真、駅舎、ホーム) 【久喜の鉄道】(1)

昭和44年4月25日の「久喜町だより(第74号)」に、「久喜駅舎を橋上駅に」という記事があります。この記事には、「駅構内に公道跨線橋(こせんきょう)を架けて、東西の交通を結ぶ計画～中間線路上に橋上駅舎ができる」とあります。昭和45年11月に橋上駅が完成し、駅東口が開設されたことにより、飛躍的に利便性が高くなりました。この写真は、工事前の久喜駅の様子です。

No. 580092 踏切(英文標示) 【久喜の鉄道】(2)

昭和35年6月10日の「久喜町だより(第33号)」によれば、久喜-和戸間の県道踏切と下早見の踏切に、警報機が取り付けられたという記事が掲載されています。「安心して踏切が通れるように、ぜひ警報機を取り付けて欲しい」と、地元のかたが陳情した結果、東武鉄道が、2基の踏切警報機を設置したものです。「CAUTION(注意)」の英文標示は、現在見られなくなりました。

No.580096、580097 老人クラブ研修旅行「長寿列車」、No.580096、580097 老人クラブ研修旅行(駅前) 【久喜の鉄道】(3)

昭和41年11月24日から26日にかけて、久喜町老人クラブ連合会が主催した「熱海研修旅行」での特別列車「長寿列車」と、駅前に集まる参加者を撮影した写真です。参加者は、女性は着物姿、男性はハンチング帽をかぶっている人が多く見受けられます。旧式の客車には、大きく「長寿列車」と記した横断幕が付けられています。引率のための「のぼり旗」も、現在となっては珍しいものです。

No. 580096 踏切を渡る親子 【久喜の鉄道】(4)

昭和44年11月25日の「久喜町だより(第78号)」には、「踏切を渡る人たちの安全を見守る婦人会員」と説明されています。この写真は、かつて「開かずの踏切」と呼ばれていた場所を写したものです。歩行者が渡る踏切の入口部分には、木製の柵が打ち込まれ、「ふみきりちゅうい」と書かれています。久喜市は、鉄道の要衝(ようしょう)として、鉄道と共に発展して来ました。このため、線路の数が集中する場所があり、「開かずの踏切」と呼ばれた踏切もありましたが、オーバークリッジの完成により、その不便は解消されました。

No. 580100 ボーイスカウトによる選挙啓発、選挙啓発運動 【久喜の選挙】(1)

昭和37年7月2日の「久喜町だより(第57号)」に、「ボーイスカウトが棄権防止パレード」という記事が掲載されています。この記事によれば、「ボーイスカウト久喜団では参院選棄権防止のため町内をパレード活躍～発足以来7年、交通事故防止、街を明るくする運動、募金運動等、かげの奉仕者として感謝されています」とあります。

No.580103 町長選挙の立て看板 【久喜の選挙】(2)

昭和45年8月2日に執行された、久喜町長選挙と久喜町議員補欠選挙の立て看板を写した写真です。このような写真は、後世に残りにくく、大変珍しいものです。

久喜町長選挙での有権者数は21,816人、投票率は56.22%で、榎本善兵衛氏が久喜町長に当選しました。榎本善兵衛氏は、久喜町時代の昭和37年8月に久喜町長に就任しています。在任中の昭和46年10月1日に、久喜町は久喜市となり、初代市長として活躍しました。

No. 580095 久喜町議員選挙での行列 【久喜の選挙】(3)

昭和46年6月15日の「久喜町だより(第91)」号には、当時の久喜町の投票所が、7箇所紹介されています。第1投票所「久喜町公会堂」、第2投票所「新二会館」、第3投票所「久喜小」、第4投票所「公民館東支館(元太田村役場)」、第5投票所「公民館南支館(元江面村役場)」、第6投票所「江面二小」、第7投票所「公民館西支館(清久小内)」。この写真は、昭和42年4月28日の久喜町議員選挙での、投票者の行列を写したものです。

No. 580092 投票事務従事者、No. 580097 衆議院選挙の投票、No. 580103 投票箱の到着

No. 580095 開票作業 【久喜の選挙】(4)

昭和44年12月27日に執行された衆議院議員選挙の、久喜町の投票率は66.17%であったと、昭和45年1月20日の「久喜町だより(第80号)」に記載されています。開票作業の写真は、昭和42年4月28日の久喜町議員選挙のものでした。

No. 580094 朝の登校 【久喜の学校】(1)

昭和44年11月25日の「久喜町だより(第78号)」に、「婦人交通指導員誕生」という記事が掲載されています。この記事によれば、「悲惨な交通事故から歩行者を守るために、(昭和44年)10月1日から婦人交通指導員を設置することになり、このほど三名の指導員が誕生いたしました～町内の危険箇所を重点に、朝夕のラッシュ時、通学児童や老人の街頭補導を行っています」とあります。

No. 580097 久喜のスフィンクスとピラミッド、気象板 【久喜の学校】(2)

写真には、エジプトのスフィンクスや、ピラミッドのようなものが写っています。トーテムポールや百葉箱、気象板と書かれた野外パネルも写っていますが、撮影年月日や撮影場所の記録がなく、謎の写真です。どなたか、「どこの小学校の校庭」なのか、「いつごろの時代の校庭」なのかといったことを、ご記憶のかたがいらっしゃいましたら、当館に情報提供してはいただけませんか。

No.580101 久喜小学校正門、久喜小・清久小の校舎、No.580097 久喜小のスプリンクラー 【久喜の学校】(3)

久喜小の木造校舎は、昭和29年9月14日の「久喜町だより(第2号)」によれば、「久喜小第一危険校舎改築工事」により、昭和29年3月17日着工、同年8月26日竣工とあります。一般教室5・音楽室1・便所・放送施設等を備え、近代的な様相になったともあります。その後、校庭には砂塵の飛散防止のためのスプリンクラーも設置されました。清久小の写真も同じアルバムから出てきました。

No. 580101 久喜中学校入口 【久喜の学校】(4)

久喜町立久喜中学校の2階建て校舎は、昭和26年10月に落成しました。その後、久喜町立太田中学校と統合するため、増築工事を実施することとなります。その増築工事が終了した後の昭和31年6月15日、太田中学校は久喜中学校に統合されました。この日は、久喜中学校の開校記念日となっています。この写真は、昭和40年代に久喜中学校の入口を撮影したものです。

No. 580101 久喜中学校体育館杭打ち 【久喜の学校】(5)

昭和39年12月25日の「久喜町だより(第78号)」に、「久喜中体育館落成」の記事が載っています。この記事によれば、鉄筋鉄骨造・2階建て・延床面積980㎡・総工費2030万円・昭和39年11月14日竣工とあります。着工は昭和39年6月12日ですので、5か月で完成したことになります。

No. 580097 清久小学校プール完成 【久喜の学校】(6)

昭和41年8月15日の「久喜町だより(第54号)」の表紙に、「清久小プール完成」の記事があります。この記事によれば、「学童の体位向上と水の事故をふせぐことを目的として建設されていた清久小プールが7月28日竣工式の運びとなりました～町長はじめ、教育関係者が出席され、真夏の太陽の光に照らされ銀色に輝くプールで初泳ぎが行われました」とあります。

No. 580096 町民体育祭 【久喜のスポーツ】(1)

昭和42年11月15日の「久喜町だより(第63号)」の表紙に、「町民体育祭」の記事が載っています。この記事によれば、「菊花は薫る秋の一日、恒例の町民体育祭が、久喜・太田江面・清久の各地域において行われました～100米(メートル)競争、アベック競争、幸運の椅子～老若男女があい集ってのなごやかな楽しい1日でした」とあります。謎の種目名もあり、興味深いものです。

No. 580097 久喜高校女子バレー全国優勝パレード 【久喜のスポーツ】(2)

昭和42年の「全国高等学校総合体育大会バレーボール競技大会」において、久喜高バレー部が全国優勝を成し遂げました。この写真は、優勝パレードの様子です。オープンカーに乗り、優勝旗を持った主将や、記念品を持って歩く部員たちの様子が写っています。久喜高校は、東京オリンピック強化コーチとしても活躍した稲山(いなやま)教諭が毎日6時間以上のトレーニングを実施し、稲山流の練習の成果により、高校女子バレー界の強豪校として有名でした。

No. 580094 職員消防発足式、No. 580100 消防訓練 【久喜の消防】(1)

昭和40年11月15日の「久喜町だより(第46号)」に、「職員消防隊発会式終る」という記事が掲載されています。この記事によれば、「10月16日役場職員による消防隊が結成され、発会式が行われ、消防団長より隊員16名に辞令が渡されました～消防車をかこみ、機構、操作などの説明を新隊員は、熱心に聞きっていました」とあります。また、次の消防訓練の様子は、消防団により昭和37年に実施されたときに撮影されたものです。

No. 580095、580092 消防車 【久喜の消防】(2)

1枚目の消防車は、昭和38年8月に新規購入したものです。「価格は156万5千円」・「125馬力」と、昭和38年9月1日の「久喜町だより(第69号)」に書かれています。2枚目の消防車は、昭和35年8月10日の「久喜町だより(第34号)」によれば、「125馬力・車体85万5千円」とあります。

No. 580097 火の見やぐら・役場脇 【久喜の消防】(3)

この写真は、久喜町役場(現在、中央公民館のある場所)の脇にあった「火の見やぐら」を撮ったものです。建物が高層化された現在と違い、低い建物が多かった時代には、高い「火の見やぐら」に登り、火災の煙をいち早く確認することが、効果的な消防につながりました。

久喜市公文書館 第5回企画展

「広報カメラが撮った久喜市の100枚」

平成26年8月19日発行 編集:久喜市総務部公文書館公文書係

発行所:久喜市公文書館 〒346-8501 埼玉県久喜市下早見85番地1

Tel 0480-23-5010 Fax 0480-22-1996 E-mail kobunsho@city.kuki.lg.jp